

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

<団体情報>

担当小委員会	第 34 小委員会
事務局	(一社) 日本照明工業会

<規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 8122（202X）
対応国際規格番号：発行年	IEC 61184：2017（Ed.4.0）＋AMD1：2019
規格タイトル	差込みランプソケット
適用範囲に含まれる主な電気用品名	ランプレセプタクル（引掛け型のもの） キーレスソケット（引掛け型のもの） キーソケット（引掛け型のもの） プルソケット（引掛け型のもの） ボタンソケット（引掛け型のもの） その他のソケット（引掛け型のもの）
廃止する基準（発行年）及び有効期間	J61184（H26） / 有効期間 3 年間
雑音の強さ（当てはまらない選択肢を消去）	・規格適用なし ・表 2 を適用 ・この規格を適用

<審議中に問題となったこと>

特になし。
補足：適用範囲となる照明器具の例



電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

＜主な国際規格との差異の概要とその理由＞

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概 要	理 由
9.1	この項目の要求事項に対して、適合すべきシェードホルダリングの仕様（互換性に関する設計意図）を明確にした。	我が国では、シェードホルダリングと同様の構造ではあるが、特定のランプソケット専用として設計された部品を、器具附属部品の固定手段として用いることが一般的である。
9.3	ねじを切った差込口及び止めねじの寸法規定について、ランプソケットを分解する必要がある場合の判定方法を注記から本文に変更した。	注記より本文に記載する方が妥当と判断した。
13.8	内線規程で認められているコード止め方法をこの項の要求事項と同等以上の性能をもつとみなせる基準に適合している場合として認めることとした。	我が国で普及している代替方法を考慮するため。
13.8	JISC 3010, JISC 3301 及び JISC 3306 に適合する電線が、我が国では使用されているため、適合電線として追加した。	我が国固有の事情を考慮するため。
13.11	背板形ランプソケットを固定するねじの呼び径は、IEC 規格で 4 mm 以上だが、我が国では造営材に固定する際に、使用するねじが 3 mm 以上であるため、呼び径寸法を変更した。	我が国固有の事情を考慮するため。
13.11	IEC 規格では、呼び径の判定をゲージを用いて行うが、JIS では寸法測定も可とした。	我が国で普及している代替方法を追加し、選択可能とした。
16.8	我が国で使用されているランプソケットについて、背板形ランプソケットの固定用ねじ及び締付トルクを追加した。	13.11 の呼び径寸法に関するデビエーション追加に伴い、基準を追加した。
18 表 8	当該規格は定格 250 V のみの規定のため、定格電圧の中間値から沿面距離を補間する規定について、不要な要求事項を削除した。	この規格では明らかに不要であるため。
19.3	T1 又は T2 マークのあるランプソケットは、19.2 の試験を実施せずに 19.3 に規定する試験を行う旨の説明を追加した。	試験手順の明確化であり技術的な変更はない。

電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

<主な改正点>

項目番号	概 要	理 由
3	“外郭付強化絶縁ランプソケット”，“部分的強化絶縁ランプソケット”，“定格電圧”，“動作電圧”，“定格電流”，“イグニッション電圧”及び“イグニッションパルス電圧”の用語を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
3.2.3	支持面又は適切な箱に直接取り付けための背板形ランプソケットは，電気用品安全法上の“ランプレセプタクル”の範囲に含まれると解釈し，“ランプレセプタクル”を同義語として追記した。	“差込みランプソケット”の一種として“ランプレセプタクル”の形状があることを確認したため追加した。
7.5	感電保護の分類に“部分的強化絶縁ランプソケット”及び“外郭付強化絶縁ランプソケット”を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
8.6	我が国で入手可能な溶媒として，IECEE の“Decision-Database”である，“PAC/34-2012/DSH”及び“OSM/IN-263”から，JIS K 8848 [ヘキサン（試薬）] が該当することが判明したため，注記を追加した。	試験に用いる溶剤として，我が国で入手可能な溶媒を調査し，該当する溶剤が判明したため，理解の促進を目的に追加した。
9.1	9.1において対象とするシェードホルダリングは，互換性をもたせることを意図して使用する場合だけに限定した。	我が国では，シェードホルダリングと同様の構造であるが，特定のランプソケット専用として設計された部品を，器具付属部品の固定手段として用いることが一般的である。JIS では互換性をもつことを意図している場合だけ，適合を求めるように変更した。
18	導電路を形成しない無機質材料（ガラス，セラミックなど）の沿面距離は，関連する空間距離の値より大きくする必要がない旨を追加した。	対応国際規格の改正に合わせて追加した。
20.1	へこみ深さによる判定方法の記載を削除した。	対応国際規格の改正に合わせて削除した。これは，JIS C 60695-10-2:2018 において，直径を測定する方法よりも再現性が低いことが示されているためである。
21.1	8.6 で示す石油エーテルの具体的な溶媒であるヘキサンを追加した。	8.6 の理由と同じ。

技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

規格番号：JIS C 8122:202X 規格名： 差込みランプソケット

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二条 第1項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 4	箇条 4 一般要求事項 ランプソケットは、通常の使用において確実に機能し、かつ、人及び周囲に危険を与えない設計及び構造でなければならない。	
第二条 第2項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	箇条 11 11.3 11.4 箇条 13 13.1 13.2 13.3 13.4	箇条 11 端子 11.3 端子は、ねじ締め式端子又はこれと同等な接続方法で接続可能なものでなければならない。 11.4 端子は、導体を正しく取り付けした後、ランプ着脱の操作前、操作中及び操作後に充電部と可触金属部又はスイッチの可動部との間で偶発的に接触する危険がないように配置しなければならない。 箇条 13 構造 13.1 プランジャ接点の接触面は滑らかで、プランジャ接点の接触面の角部は、対応するランプの容易な着脱を妨げない形状でなければならない。 13.2 ランプソケットの各部品は、互いに確実に接続されなければならない。 13.3 ねじを切ったシェードリングを用いる場合、リングの外縁は、手で容易に回転するように設計しなければならない。 13.4 ユニオンリングを用いる場合、手で容易に回転するように設計しなければならない。	

技術基準との整合確認書

				<p>13.5 13.5 通電部品を支持するために内部に別部品を用いる場合、ランプソケットの他の部品に対して回転しないようにキー構造で固定しなければならない。</p> <p>13.6 13.6 ランプソケットのドームの内側には、電源電線のための十分な空間がなければならない。</p> <p>13.7 13.7 ネジを切った差込口は、電線管に固定可能でなければならない。</p> <p>13.8 13.8 コードグリップランプソケットは、可とうコードを固定する装置を備えなければならない。</p> <p>箇条 17 箇条 17 ネジ、通電部及び接続部 破損によって、ランプソケットの安全性を損なうおそれのあるネジ、通電部及び機械的接続部は、通常の使用状態で生じる機械的応力に耐えなければならない。</p>	
<p>第三条第1項</p> <p>第三条第1項 続き</p>	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するように設計されるものとする。	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条 16 箇条 16 機械的強度</p> <p>16.1 16.1 ランプソケットは、使用中の通常操作の応力に耐える強度をもたなければならない。</p> <p>箇条 19 箇条 19 耐久性</p> <p>19.1 19.1 ランプソケットは、十分な熱耐久性をもたなければならない。</p> <p>箇条 20 箇条 20 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>20.1 20.1 接点を保持する部分、絶縁材料製のランプソケットの外付け部分及び導電性の外面をもつ絶縁材料製の外付け部分は、耐熱性をもたなければならない。</p>	
第三条第2項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用	<p>■該当 □非該当</p>	<p>箇条 8 箇条 8 表示</p> <p>8.1 8.1 ランプソケットには、定格電圧、製造業者名、形式記号、定格電流（2A 超の場合）、定格動作温度の情</p>	

技術基準との整合確認書

		上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。			<p>報等を表示しなければならない。</p> <p>次の情報は、製造業者のカatalog又はこれに類するものの記載しなければならない。</p> <p>ーこの規格で取り扱うランプソケットには、耐インパルスカテゴリⅡの距離を適用する。</p> <p>ー外郭付強化絶縁ランプソケットは、通常の使用時に触れることが可能な照明器具での使われ方を想定し、適切な水準の保護を提供している。</p> <p>ー部分的強化絶縁ランプソケットが、接触可能な外面までの沿面距離及び空間距離を満足するには、照明器具の設計、附属部品、カバーなどによる追加の保護が必要である。</p>	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 16 16.1 箇条 17 箇条 19 19.1 箇条 20 20.1	<p>箇条 16 機械的強度</p> <p>16.1 ランプソケットは、使用中の通常操作の応力に耐える強度をもたなければならない。</p> <p>箇条 17 ねじ、通電部及び接続部</p> <p>破損によって、ランプソケットの安全性を損なうおそれのあるねじ、通電部及び機械的接続部は、通常の使用状態で生じる機械的応力に耐えなければならない。</p> <p>箇条 19 耐久性</p> <p>19.1 ランプソケットは、十分な熱耐久性をもたなければならない。</p> <p>箇条 20 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>20.1 接点を保持する部分、絶縁材料製のランプソケットの外付け部分及び導電性の外面をもつ絶縁材料製の外付け部分は、耐熱性をもたなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

				箇条 21	箇条 21 過度の残留応力（自然割れ）及びさびに対する抵抗力	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	箇条 4 箇条 15 15.2	<p>箇条 4 一般要求事項</p> <p>器具内用を特に意図していない独立形ランプソケットの場合、この規格に規定していない項目は、JIS C 8105-1:2021 の次の章及び細分箇条の要求事項に適合しなければならない。</p> <p>第 9 章—じんあい、固形物及び水気の侵入に対する保護</p> <p>箇条 15 耐湿性、絶縁抵抗及び耐電圧</p> <p>15.2 ランプソケットは、通常の使用で起こり得る湿度条件に耐えなければならない。</p>	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 20 20.1 20.2 20.5	<p>箇条 20 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性</p> <p>20.1 接点を保持する部分、絶縁材料製のランプソケットの外付け部分及び導電性の外面をもつ絶縁材料製の外付け部分は、耐熱性をもたなければならない。</p> <p>20.2 導電性の外面をもつものを含め、感電保護を行う絶縁材料の外郭部分及び充電部を所定の位置に保持する絶縁材料の部品は、耐火性及び耐着火性をもたなければならない。</p> <p>20.5 普通形以外のランプソケットの場合、充電部を保持する絶縁部品は、適切な耐トラッキング性をもたなければならない。</p>	
第七条 第 1 号	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条 10 10.1	<p>箇条 10 感電に対する保護</p> <p>10.1 ランプソケットは、充電部が可触にならないように設計しなければならない。</p>	

技術基準との整合確認書

		一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。		10.2 10.3 10.4	10.2 ランプソケットは、端子及び接点の接触機構以外の金属部が、通常の使用状態において、ランプの差込み前、差込み中及び差込み後に、充電部にならない構造でなければならない。 10.3 充電部との偶発的接触を防止する目的の部品は、正しく組み立てたときに、電源コード又は電源ケーブルの取付けに必要な、通常の取外し及び交換中に発生する力に十分耐える機械的強度をもたなければならない。 10.4 防滴形ランプソケットの外郭部品であって、故障の場合にも充電部にならないねじ込み口及びシェードキャリアリング以外の部分は、絶縁材料製でなければならない。	
第七条 第2号	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 4	箇条 4 一般要求事項 器具内用を特に意図していない独立形ランプソケットの場合、この規格に規定していない項目は、 JIS C 8105-1:2021 の次の章及び細分箇条の要求事項に適合しなければならない。 第 10 章 —絶縁抵抗及び耐電圧、接触電流及び保護導体電流（クラス II が対象）	
第八条 第八条 続き	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 15 箇条 18	箇条 15 耐湿性、絶縁抵抗及び耐電圧 箇条 18 沿面距離及び空間距離	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用そ	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 19 19.1	箇条 19 熱耐久性 19.1 ランプソケットは、十分な熱耐久性をもたなければならない。	

技術基準との整合確認書

		その他の措置が講じられるものとする。		19.3 箇条 20 20.1 20.2 20.5	19.3 接点及び他の全ての通電部は、過大な温度上昇を防止する構造でなければならない。 箇条 20 耐熱性、耐火性及び耐トラッキング性 20.1 接点を保持する部分、絶縁材料製のランプソケットの外付け部分及び導電性の外面をもつ絶縁材料製の外付け部分は、耐熱性をもたなければならない。 20.2 導電性の外面をもつものを含め、感電保護を行う絶縁材料の外郭部分及び充電部を所定の位置に保持する絶縁材料の部品、耐火性及び耐着火性をもたなければならない。 20.5 普通形以外のランプソケットの場合、充電部を保持する絶縁部品は、適切な耐トラッキング性をもたなければならない。	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 4	箇条 4 一般要求事項 器具内用を特に意図していない独立形ランプソケットの場合、この規格に規定していない項目は、 JIS C 8105-1:2021 の次の章及び細分箇条の要求事項に適合しなければならない。 12.4 及び 12.5—温度試験 12.4 温度試験（通常動作）—照明器具が動作温度に達したときに可触部分、取り扱う部分、調整する部分及び握る部分の過度の温度上昇があってはならない。 12.5 温度試験（異常動作）—手で触れるおそれのある部分の温度について規定されている。	
第十一条 第1項	機械的危険源 による危害の	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 13 13.6	箇条 13 構造 13.6 ランプソケットのドームの内側には、電源電線	

技術基準との整合確認書

	防止	害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。			のための十分な空間がなければならない。電源電線が接触する可能性のあるランプソケットの部品は、鋭い縁又は絶縁を損傷するおそれのある形状があつてはならない。	
第十一条 第2項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	■該当 □非該当	箇条16 16.1	<p>箇条16 機械的強度</p> <p>16.1 ランプソケットは、使用中の通常操作の応力に耐える強度をもたなければならない。</p> <p>16.2 ねじを切った差込口があるランプソケットは、ねじ部による取付けが有効に機能し、通常時にランプソケットを危険にするような損傷を与えない設計をしなければならない。</p> <p>16.3 ランプソケットの外郭部品は、正しく組み立てられた状態で、適切な機械的強度をもたなければならない。</p> <p>16.7 防滴形ランプソケットの差込口及びグランドは、通常の取付け中及び使用中に発生する機械的ストレスに耐えなければならない。</p> <p>16.8 背板形ランプソケットは、損傷することなく支持物への固定に耐える設計でなければならない。</p>	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	□該当 ■非該当	—	—	一般的に、ランプソケットは人体に危害、又は物件に損傷を与えるおそれのある化学物質の流出及び溶出がな

技術基準との整合確認書

						いため、非該当が妥当と考える。
第十三条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、ランプソケットは人体に危害を及ぼす恐れのある電磁波が発生しないため、非該当が妥当と考える。
第十四条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条4	<p>箇条4 一般要求事項</p> <p>器具内用を特に意図していない独立形ランプソケットの場合、この規格に規定していない項目は、JIS C 8105-1:2021 の次の章及び細分箇条の要求事項に適合しなければならない。</p> <p>JIS C 8105 の 12.4 及び 12.5—温度試験</p> <p>箇条19</p> <p>19.1</p> <p>箇条19 熱耐久性</p> <p>19.1 ランプソケットは、十分な熱耐久性をもたなければならない。</p>	
第十五条 第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、ランプソケットは始動の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十五条	始動、再始動	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再	<input type="checkbox"/> 該当	—	—	一般的に、ラン

技術基準との整合確認書

第2項	及び停止による危害の防止	始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■非該当			ブソケットは再始動の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十五条 第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	□該当 ■非該当	—	—	一般的に、ランプソケットは停止の機能はないため、非該当が妥当と考える。
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	■該当 □非該当	箇条11	箇条11 端子 11.3 端子は、ねじ締め式端子又はこれと同等な接続方法で接続可能なものでなければならない。 11.4 端子は、導体を正しく取り付けした後、ランプ着脱の操作前、操作中及び操作後に充電部と可触金属部又はスイッチの可動部との間で偶発的に接触する危険がないように配置しなければならない。	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	□該当 ■非該当	—	—	一般的に、ランプソケットは電磁的妨害による誤動作により、安全機能に障害が生じることはないため、非該当が妥当と考える。

技術基準との整合確認書

第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	一般的に、ランブソケットは雑音を発生する要因を持っていないため、非該当が妥当と考える。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条8 8.6	箇条8 表示 表示についての規定がある。 8.6 表示は、耐久性があり、容易に読めなければならない。	
第二十条 第1号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため、非該当が妥当と考える。

技術基準との整合確認書

第二十条 第2号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第3号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため、非該当が妥当と考える。
第二十条 第4号	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間 (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	「長期使用製品安全表示制度による表示」対象製品ではないため、非該当が妥当と考える。